

全国中心市街地活性化 まちづくり連絡会議

第13回 勉強会 in 飯塚市

平成 25 年 10 月 3 日～4 日、「全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議第 13 回勉強会」が福岡県飯塚市のパドドゥ・ル・コトブキで開催されました。今回の勉強会には 29 社 89 名（賛助会員等を含む）と多数の皆様にご参加頂きました。

《第 1 日目》

はじめに、(株)まちづくり松山の日野会長より、「現在、日本の国では大きな変化が起きているが、地方都市中心市街地にとってマイナス材料が多く、多くの問題に対して我々も参加しながら解決していかねばならない。そのような状況のなかで、我々街づくり会社は行政、市民、商店街の代弁者であり、街に対して創造的なつなぎ役でなければならぬ」という。本日はいろいろな生い立ちの街づくり会社が集まっており、各社それぞれ努力をされていると思うが、中心市街地活性化に対する一つの大きな答えは見つかっていないと思う。今こそみなさんの



意見を結集する必要があると考えている。我々街づくり会社がそれぞれの街で果たす役割について集中して議論をするワークショップ・勉強会のような場が必要と考えており、担当の国交省まちづくり推進課にもお願いをして、来年早々に一度東京でそのような会を行いたいと考えている。」とのご挨拶をいただきました。

続いて、国土交通省都市局まちづくり推進課官民連携室の中村室長より「少子高齢化、人口減少等大きな流れがあるが、国交省としては今年の夏に中心市街地を含んだ街のあり方をどうすべきか、街なかに人が集まるような施策をうてないか再整理をした。予算もそれにならって組み換えて要求しているところ。今後も制度改革の話題が出てくると思うが、勉強会の場をはじめとして、情報伝達をする機会があるが、国交省としては、そういうところで情報を伝えていきたいので、皆様も情報アンテナを高くしていただき、皆様の活動が円滑に進むようお願いをしたい。」とのご挨拶をいただきました。



また、開催地を代表して飯塚市の齋藤市長より、「飯塚では平成 23 年 11 月にまちづくり会社が設立された。中心市街地の百貨店が廃業して広いスペースが空いたり、それ以前にも中心市街地の商店街が火災に遭い、現在空き地となっているところがあ

る。百貨店跡地の方はまちづくり会社が出資して建屋を賃貸住宅として貸しており、1 階部分については飯塚市が借りて健康広場としている。現在飯塚市では、スマートウェルネスシティという市民が健康で長生きするようにという施策を展開しており、歩くことで元気になっていただきたく、そのための環境づくりを進めている。

まちづくりは民間と行政が一体となって進めなければうまくいかないと思う。皆さんはそれぞれの地域で大変多くのご苦勞をされていると思う。皆さんはあちこちに行って勉強していると思うが、この勉強会が実りあるものになれば幸い。」とのご挨拶を頂き、飯塚商工会議所の加藤副会頭より「飯塚市は平成 24 年度に策定した中活基本計画に基づき経産省や国交省の補助金を活用し積極的に中活に取り組んでいる。商工会議所としては市や飯塚市商店街連合会と連携し、ソフト事業を中心に様々な事業に取り組んでいる。現在特に商店街で力を入れて



取り組んでいる事業が、街ゼミと 100 円商店街とバルで、それぞれ効果が出ている。皆様には飯塚のいいところを参考に、悪いところはご指摘いただいて皆様とともに全国の中心市



街地が元気になることを祈念いたします。」とのご挨拶をいただきました。

さらに、地元選出の麻生太郎議員から祝辞があり、麻生太郎事務所の長尾様が代読されました。祝辞の内容は、以下のとおり。「勉強会をわが飯塚で開催していただき、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。中心市街地の空洞化が全国的に指摘されてお



り、政府としても様々な政策を実施し懸命な努力をしている。商店街でもこれまでにない前向きな徹底した意識改革、さらには中心商店街の一体となった取組も必要。これまで各商店街の

皆様が努力されてきたことには敬服するが、それをを超える努力もまた求められている。勉強会を通して中心市街地が飯塚だけでなく活性化に取り組まれている皆様の地域で、大きな魅力を持つ街となり発展することを願っている。」

■飯塚市概要・取り組み事例の紹介

(1) 飯塚市中心市街地活性化基本計画について

飯塚市中心市街地活性化推進課

課長 大庭 義則氏

1. 飯塚市について
2. 中心市街地の現状と課題について
3. 活性化に向けた取り組み 事業一覧

4. 中心市街地活性化の目標

＜活性化に向けた取り組み＞

①ダイヤル跡地事業地区暮らし・にぎわい再生事業



②飯塚本町東地区土地区画整理事業・優良建築物等整備事業

③吉原町1番地区第一種市街地再開発事業



④新飯塚地区歩行者空間活用事業

⑤健康空間創出事業

5. 「健康」をキーワードにした中心市街地活性化の取り組み

(2) 飯塚市商店街連合会の活動について

飯塚市商店街連合会 どうで商フロゾエト

委員会

委員長 田中 雄治氏

1. 大店法改正に伴う郊外店の進出と核店舗の喪失

2. 災害による打撃と『生き残り』への模索

3. 日常の販促活動の取り組み

1) 商店街ツアー

2) 飯まちサポーターズ事業

3) 百縁市（100円商店街）

4) 一店逸品運動

5) まちゼミ

6) ファミリー層ターゲットの事業

7) 常時サービスの事業

8) 従来からの主な事業

4. 事業の継続効果とまとめ



■国土交通省・経済産業省からの情報提供

(1) これからのまちづくりについて

国土交通省都市局まちづくり推進課

中心市街地活性化 係長 山本 直史氏

1－①都市再構築戦略検討委員会について

1－②同委員会の中間とりまとめの概要

2－①地方都市の現状と課題

2－②委員の主なご意見（地方都市）

2－③地方都市に関する施策の方向性

2－④地方都市の目指すべき都市構造のイメージ

3－①大都市の現状と課題

3－②委員の主なご意見（大都市）

3－③大都市に関する施策の方向性

(2) 九州地方における

中心市街地活性化まちづくりについて

国土交通省九州地方整備局建政部

都市・住宅整備課 課長 長江 亮氏

1. 九州地方の特徴

- ・九州圏の位置づけと圏土構造の特徴
- ・九州圏を支える交通ネットワーク
- ・九州地方の観光
- ・九州地方の特産物
- ・九州をとりまく自然災害

2. 九州地方におけるまちづくりと中心市街地活性化

- ・九州地方の自治体のまちづくり上の課題
- ・九州地方の中心市街地活性化基本計画

3. 九州地方におけるまちづくりの取組事例

・長崎県諫早市

・宮崎県日南市

(3) 中心市街地活性化施策の方向性

経済産業省九州経済産業局

産業部流通・サービス課商業振興室

課長補佐 福成 嘉和氏

○これまでの中心市街地活性化政策の概要

○中心市街地活性化施策の強化

○補助事業等の紹介

- ・地域商業自立促進事業
- ・まちプロデュース活動支援事業委託費
- ・中心市街地再興戦略事業費補助金
- ・戦略的中心市街地エネルギー有効利用事業費補助金
- ・中心市街地魅力発掘・創造支援事業費補助金

○中心市街地活性化のための税制措置の創設

○企業活力強化貸付（日本政策金融公庫）について

○九州の中心市街地活性化事例

- ・熊本市：桜の馬場城彩苑
- ・大村市：コレモおおむら

(4) 中心市街地活性化施策について

内閣府内閣官房地域活性化統合事務局

内閣府地域活性化推進室

参事官補佐 横田 清泰氏

○国・地方一体となった地域活性化の取組

○「中心市街地活性化に関する法律」の仕組み

○「中心市街地の活性化を図るための基本的な方針」の概要

○中心市街地の要件

○中心市街地活性化協議会の概要

○中心市街地活性化基本計画の認定基準

○中心市街地活性化基本計画認定等の状況

○中心市街地活性化に関する事例

○日本再興戦略 JAPAN is BACK

○日本再興戦略における「中心市街地活性化」

○「中心市街地活性化推進委員会」の開催について

○中心市街地活性化に関する主な論点

○中心市街地活性化に向けた人材活用



■講演

『商業者とともに取り組む中心市街地の活性化』

街の元気づくりコーディネーター

久保 里砂子氏

○松江について

○H12年からの中心市街地活性化事業

○第1期中心市街地活性化基本計画（H20～24）

○ソフト事業（イベント事業）

○活性化とは？

○“何をするか”より“誰がやるか”

○中心市街地における商店街の新たな動き

○新大橋商店街の取組

- ・アーケードの老朽化⇒建替え検討
- ・縁側ぎゃらりいホーラエンヤ写真展
- ・初めてのイベント開催
- ・シャッターアート
- ・清掃活動
- ・おもてなしスキルアップ講座
- ・地域商店街活性化法の認定を受けて、各種事業展開

○中央商店街の取組

- ・WAONカード・Wi-F-導入
- ・アーケード撤去・街路灯とベンチ設置
- ・個店の魅力アップ

○タテ街商店街の取組

- ・アーケード撤去 支柱を活用して街路灯設置
- ・タテ街新名物（一店逸品運動）
- ・土曜夜市

○天神町商店街の取組

- ・天神ビアガーデン
- ・商店街を取り巻く交通環境と駐車場整備についての勉強会

○駅本通商店会の取組

- ・BJリーグスサノオカフェ誘致

○商店街の自発的な動き

○商店街が取り組む中心市街地活性化

○やる気UP活性化スパイラル

○やる気上昇要因

○街の元気の種を育てる 街が動く力を育てる

■シンポジウム

『まちづくり会社がこれからの中心市街地活性化に果たすべき役割』

【コーディネーター】

（有）協働研究所取締役 東 朋治氏

【パネリスト】

飯塚市企画調整部長 田代 文男氏
（株）まちづくり飯塚取締役 久保 森住光氏
街の元気づくりコーディネーター 久保 里砂子氏
飯塚市商店街連合会合同販促委員会 縄田 真照氏
（株）まちづくり松山代表取締役 日野 二郎氏



○中心市街地で力を入れていること

○まちづくり会社設立のきっかけ

- ・松山は収益事業を継続実施するにあたり、補助金の受け皿として会社を設立した
- ・飯塚が好きでまちづくりに参画する人をつなげる組織としてできたものと感じている。

○まちづくり会社ができて変わったこと

- ・長期間停滞していた事業が動いた
- ・中活に取り組む雰囲気が変わった

○まちづくり会社の課題

- ・世代交代
- ・専門的知見や経験値の不足

○課題に対して専門家としてできること

○コーディネーターとして心がけていること

- ・“そっと”背中を押す

○まちづくりに期待すること

- ・まちづくりに参画する人を増やしてほしい
- ・行政が言えないことを中間的な立場で代弁してほしい

○優先して取り組みたい事項

- ・各世代毎の信頼関係の構築
- ・街好きを増やしたい。商店街を街に無くてはならない存在にしたい。
- ・市としては中心市街地以外の人に施策のメリットを感じてもらえるようにしたい。
- ・商店街としては、まちづくり会社に任せきりにせず常に話し合ったりできる対等な関係でいたい

○まとめ

中心市街地では、これまでは交流人口の増加を目指してきたが、今後は定住人口の確保を目指すべき。そのために住みたくなる中心市街地にすべき。まちづくり会社はマンション等を作って直接的に定住人口を増やすようなことはできないが、防犯、防災、教育等、多様な観点で中心市街地を良くすることで地域のブランドイメージを上げて、民間事業者が投資したいと思われるような中心市街地にすることは可能。そのために、まちづくり会社ができることはたくさんある。

■交流会

飯塚市田中副市長及び（株）黒壁代表取締役の高橋潤様によるご挨拶に続き、（株）まちづくり飯塚代表取締役の前田様による乾杯から交流会は始まり、盛大な会となりました。最後は、（株）飯田まちづくりカンパニーの三石様による締めで閉会となりました。



＜第二日目＞

■現地視察

第2日目は、総勢 60 名で飯塚市の中心市街地を視察しました。午前 9 時 30 分にイイツカコミュニティセンターに集合し、概要説明の後、（株）まちづくり飯塚の職員などの案内により、以下の行程で視察をしました。

イイツカコミュニティセンター→嘉穂劇場→東町商店街→歌人白蓮想→街なか交流・健康ひろば→えいらく広場→千鳥屋本家→ダイマル跡地→飯塚公民館→太養院→まちづくり飯塚→井筒屋→福岡銀行本町支店→中茶屋→ひよ子飯塚本店→曩祖八幡宮→西鉄バスセンター→あいタウン→商工会議所

□嘉穂劇場

昭和 6 年に落成。幾多の災害を乗り越え、江戸時代の歌舞伎様式を今に伝える古き良き芝居小屋。休演日は劇場内を見学できる。「花道」を歩き、舞台の上に立つことも出来る。



□街なか交流・健康ひろば

中心市街地活性化基本計画で整備された市民交流の場所。各種会議や、展示会、スロージョギング、ステップ運動などの教室や、囲碁、太極拳サークルも開かれている。上階には「まちなか子育て広場」を備えるコミュニティ施設として有効に活用されている。



□えいらく広場：飯塚本町東地区土地区画整理事業平成 20 年 4 月 21 日夕刻の大火災で、約 6,000 m²が焼失した街区。古くからの飲食街だった、「樽屋町」全域が失われた。今回の中活事業に盛り込まれ、再開発される。



□千鳥屋本家

銘菓「千鳥饅頭」発祥の地。創業の原田家は佐賀県から移り住む。炭鉱景気を背景に全国へ展開。



□ダイマル跡地事業地区

呉服店からデパートへ発展したが、平成に入り倒産した店舗が長年に渡り廃墟となっていた。今回、(株)まちづくり飯塚が取得し、多くの人が集えるコミュニティ施設として生まれ変わる。



□太養院

700年代、行基上人により建立と伝えられる寺院。福岡藩藩祖黒田官兵衛が筑前入国の際ここへ泊まり、藩体制構築の想を練ったという。また、境内にある桜の古木は飯塚一早く咲く「気の早い桜」として知られ、多くの市民が愛して止まない。

□ひよ子飯塚本店

昨年、「ひよ子」は誕生100年を迎えた、飯塚生まれの銘菓である。高度成長期に首都圏へも進出して全国区になった。

□西鉄バスセンター

：吉原町1番地区第一種市街地再開発事業
地元市民の念願であった、「飯塚バスセンター」の新築を含む再開発事業。上階に60余戸の分譲マンションや、医師会、看護学校、検診検査センター、休日急患センターを持つ複合ビルとなる。



□あいタウン

今年11月で10周年を迎えた商業ビル。スーパーマーケットや物販店、医療機関、カルチャースクール、各種事業所の事務所、そして市民交流の拠点「市民交流プラザ」が入る。



■最後に

今回の勉強会の開催地として事前準備を含めいろいろな取り組みを実施いただきました方々、(株)まちづくり飯塚、飯塚市、飯塚商工会議所の皆様に御礼を申し上げます。

次回勉強会は来年5月に長野県飯田市にて開催される予定です。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

